

第8回 川越市総合計画審議会 議事要旨

- 1 開催日時** 令和7年8月6日（水）午後2時00分から午後4時5分
- 2 開催場所** 川越市役所 第1・第5委員会室
- 3 出席者** 横田等（会長）、神田賢志、池浜あけみ、栗原瑞治、山木綾子、小ノ澤哲也、
（委員） 吉野郁恵、筑井麻紀子、石橋裕、及川康、西川亮、新井康夫、石川真、焦雁、
*敬称略 高橋健治、岡村淳子、山口陽子、牛久保努、岡野一明、関口俊一、福田智江子、
山岡俊彦、櫻井晶夫、飯島大輔、佐藤光、
- 4 欠席者** 眞下英二（副会長）、増田俊和、崎幸子、松本隆、福木孝
（委員）
*敬称略

5 会議の概要

1 開会

2 会長挨拶

本日は、前回に引き続き分野別計画について御審議いただいた後に、将来都市像について御意見をいただくことになっている。よろしくお願い申し上げます。

3 議事（ ◎会長 ○委員 ・事務局 ）

（1）分野別計画について

～ 分野別計画③及び指標一覧③を基に説明 ～

⑦地域社会・安全安心（第7回の続き）

<施策7-4 防災・危機管理体制の整備> ※補足説明

- ・前回の審議会で御質問いただいた件について、現行計画の成果指標「避難行動要支援者名簿を備えた自治会の割合」の直近値は、令和6年度で42.6%となっている。

<施策7-5 消防・救急体制の充実>

- リチウムイオン電池については、どのような機器に内蔵されているかが非常にわかりにくく、広報が重要になってくるが、市はどのような対策をしているのか。
- ・市庁舎にある大型モニターで注意喚起をしている。衝撃を与えないことや、暑いところに放置しないことなど、取扱説明書にも記載されている内容を改めて周知している。
- 廃棄物として搬出する際、分別を呼びかけているのか。
- ・広報9月号において、リチウムイオン電池の分別方法やゴミの出し方などを紹介する予定である。また、市民のしおりでも分別方法について掲載している。
- 施策を取り巻く状況④で、救急搬送人員のうち高齢者が全体のおよそ6割、軽症の方が全体のおよそ5割を占めていると記載されているが、施策の方向性2-1「市民の救命救急に対する啓発」では、具体的にどのようなことに取り組むのか。

- ・高齢者の搬送人員は増えているが、必要があれば全て出場できる体制となっている。また、救急車を呼ぶか迷ったときには、救急電話相談（＃7119）で対応している。
- 限られた台数の救急車で対応するのが難しい場合もあると思うので、軽症の方が救急車を呼ぶべきか、できるだけ自分で判断できるように周知を進めてほしい。
- 施策を取り巻く状況①をみると、消防団の団員数が定員 330 人に対して 258 人と、かなり少ない状況である。消防団員の充足率を成果指標に設定してはどうか。また、団員を増やすために、どのようなことに取り組んでいるのか。
- ・消防団員の確保に向け、イベントやポスター、チラシ等で募集している。成果指標などの具体的な記載については、検討したい。
- 令和 8 年度から供用開始になる新消防庁舎について、言及した方が良いのではないかな。
- ・検討したい。

⑧協働・行財政運営

＜施策 8－1 多様な主体との連携・協働の推進＞

- 子育てや教育など様々な分野において、行政と地域コミュニティが協働しないと上手くいかない状況にもかかわらず、施策の方向性 2－1 の僅か 3 行で片づけているのが疑問である。コロナ禍で分断された地域コミュニティの関係性が元に戻っていない状況も踏まえて記載する必要があるのではないかな。
- ・内容について検討したい。
- 施策を取り巻く状況②では、「一緒にまちづくりを進めていると感じていますか」との問いに対して、「感じている」と回答した割合が 48.1%となっているが、成果指標の基準値は 46.1%になっている。どちらが正しいのか。
- ・正しくは 46.1%である。資料を訂正したい。
- 施策を取り巻く状況①と③に対応する成果指標が無いのが気になった。成果指標が無いのは現時点で調査していないということか。
- ・成果指標は施策の方向性に対応している。「市の行政に関する情報提供について分かりやすく提供されていると感じている人の割合」は施策の方向性 1（市民参画の推進）と、「市民と行政と一緒にまちづくりを進めていると感じている人の割合」は施策の方向性 2（市民、民間団体、他自治体との連携・協働）と、それぞれ対応するものである。
- 施策を取り巻く状況②で「市の行政に関する情報提供について、わかりやすく提供されていると思いますか」との問いに対して、令和 6 年度は 78.9%で、前回調査から 2.8 ポイント増加したとある。しかし、第四次総合計画後期基本計画では、平成 30 年の実績値は 79.9%であり、当時よりも減少している。記載について再検討してはどうか。
- ・検討したい。
- 施策の方向性 2－1 について、連携や協働が生まれるためにどのような取組が必要なのか、具体的に書いてほしい。

＜施策 8－2 行政経営マネジメントの推進＞

- 成果指標「経常収支比率」と「市税収入率」について、市税収入率の増加幅に対して経常収支比率の減少幅の方が大きく見えるということは、歳出を、より削減していくという意味であると理解してよいかな。

- ・歳入の増加はもちろん、歳出の削減や業務の効率化など、歳入と歳出両面からの取組を進めていくことが必要であると考えている。
- 歳出削減には業務の効率化も重要だが、今後は、目的を達成した施策を廃止することにも必要になると考える。施策を廃止することを導入時から検討していた例はあるのか。
- ・時限的な施策であれば導入当初から廃止を検討することになるが、行政分野では一般的に長い期間をかけて政策目標を達成していくものが多いため、導入当初から施策の廃止時期を定めていないのが現状である。その点、市では事務事業評価として、個々の事務事業の必要性や効率性を点検し、必要に応じて見直しや改善、廃止を進めていく取組を行っている。
- かつては民間企業でも、新しいプロジェクトを始めた後に、そこから撤退するのは難しかった。最近では、あらかじめ撤退路線を決めることによって、そこに至ったらみんなで本当にやめるべきか検討している。行政の施策においても参考にされたい。
- 施策の方向性1－3で「ふるさと納税」とあるが、川越市は5億円の赤字と聞いており、経常収支比率が悪化している中では、非常に大きな損失ではないかと思われる。ふるさと納税を黒字にする取組は考えているのか。
- ・市民が他の自治体に寄付した場合の流出分については、その75%が国からの地方交付税として措置される。川越市へのふるさと納税額に、地方交付税措置を含めると、令和5年度は差し引きゼロ、令和6年度も概ね同様となっており、5億円の赤字という状況にはない。
- 今後10年間の計画を立てるに当たっては、歳入計画の精度を上げた方が良く考える。人口動態の予測から市民税額が推測できるなど、精度の高い財政の見通しを作成する必要がある。作成した財政見通しを常に検証し、精度を維持するような取組を検討してほしい。
- 公務員の働き方や、新しいことにチャレンジできるような体制が、これからの行政を活性化していく上で重要になると考える。川越市の職員満足度や離職率、就職希望率はどのようになっているのか。また、何か新しいチャレンジができるような仕組みはあるのか。
- ・職員の離職率は計算していないが、若年層に限らず、年々離職者数は増えている状況である。
- ・採用については、そもそも公務員の志望者が少なくなっており、自治体間の取り合いというのが実情である。そのため、民間の就職活動の時期に合わせて川越市で働くことも検討してもらえるよう、今年度から早期募集を行っている。また、技術職の応募者が民間企業に流れている状況の中、川越工業高校と提携し、学校から推薦していただいた方は1次試験を免除して、2次試験から受験できる取組を始めたところである。
- ・新しいことへのチャレンジに関して、昨年度から、各所属でやってほしい業務をリストアップして希望者を募り、マッチングすれば自分で希望した業務に従事できる制度を開始している。今後は、職員が希望する業務に従事できるような制度も検討する必要があると考えている。
- 施策を取り巻く状況①で、中核市平均と比較して経常収支比率が高いとあるが、中核市平均は何%か。
- ・令和5年度の実績値で93.0%である。
- 現状値が99.8%で目標が95.0%と、10年後も中核市平均よりも高い状況である。第四次総合計画後期基本計画では、令和7年度の目標値が90.0%であったが、目標値を再検討してはどうか。
- ・経常収支比率については地域差があり、県内市平均の94.9%をベースにして目標値を設定している。また、行財政改革推進計画に基づいて5年間取り組んできたが、コロナ禍という

特殊な状況にあっても、令和3年度の95.2%が一番低かった。今後、扶助費等が増えていく状況も踏まえると95.0%を達成するにも相当な努力が求められると考えている。

○ここで設定した目標値は、新しい行財政改革推進計画の目標値となるのか。また、市長も了解した数値であるのか。

- ・令和8年度以降の行財政改革推進計画を作る場合はこの数字を目標値として設定していくことになる。市長が了解しているかどうか確認できないが、しっかりと説明したい。
- ・川越市の場合、経常収支比率1ポイント当たり約6億円の換算になる。例えば令和12年度から令和17年度に2ポイント引き下げるとなると、13億から14億円の一般財源歳入の増か、あるいは6億円の歳入増と6億円の歳出減をしないと達成は難しい。中核市平均の93%は目指したいところではあるが、市民生活への影響も考えながら、少しでも下げる努力を続けていきたい。

○約20年前、川越市は、中核市の中では経常収支比率が高い方だったが、他の財政指標を含めて全体でみると上から5、6番目くらいに良い方であった。現在の川越市は、財政指標を全体でみて、どのような位置にあるのか。

- ・経常収支比率が中核市平均を下回っていることから、決して良い位置ではないと認識している。全国的に経常収支比率が上昇傾向であるのに加え、首都圏の自治体は地方交付税が十分に得られない厳しい状況にあり、より一層効率的な行財政運営に努めていく必要があると考える。

○経常収支比率を下げるのは非常に大変であると思うが、市民生活に影響がない形で取り組んでほしい。

○ふるさと納税の趣旨が当初とは違ってきているという批判もある。このままだと民間企業を助けるためのシステムになってしまうので、業者に委託することについては反対である。

○例えば、他市の業者に切り替えることでコスト削減に繋がり、経常収支比率は下がるかもしれないが、市内の経済に影響が生じることも考えられるので、留意されたい。

- ・市内産業を育成する視点から、物品の売買等、市内の事業者を活用することを原則としている。今後も、市内経済に目配りしていきたい。

＜施策8－3 公共施設マネジメントの推進＞

○視覚障害者は、公共施設までは点字ブロックを頼りに進めるが、施設に入ると点字ブロックが無くて、身動きが取れなくなることがある。公共施設の館内にも点字ブロックを設置してほしい。また、点字ブロックがあっても見えづらい色の施設もあり、黄色で統一してほしい。

- ・御意見を踏まえて、施設の再編等を進めていきたい。

＜施策8－4 行政DXの推進＞

○オンライン申請について、マイナンバーカードとスマホ等の顔写真データで本人確認するのでは不足があるのか。

- ・来庁して窓口で本人確認するようルール化されている手続もあるが、今後は、マイナンバーカードの署名があればオンライン申請も可とする手続は増えてくると考える。

＜施策8－5 魅力発信の充実＞

○都市間競争という意味で、「誰でも来てください」というメッセージだと単調で、競争には勝てないと思う。市としてどのようなメッセージを出すのか、しっかりと検討してほしい。

○成果指標について、もう少し高い目標を設定してもよいのではないかな。

- ・「川越市に住みたいと感じている人の割合」と「川越市に愛着を持っている人の割合」については、市民意識調査の実施年によって上下している。右肩上がりを維持するのが難しいことを踏まえて、このような数値目標としている。
- 住みたいと感じる人の割合を高めるためには、実生活に寄り添った情報発信が重要である。歴史や文化以外の魅力発信についても検討してほしい。
- ・行政情報を伝える際には、より伝わりやすい媒体や方法を検討することで、行政に対する理解を深め、市への愛着を持っていただけるようにしたい。
- 川越市に住みたいと考える人を増やす施策が必要であると考え。そのためにも、実際に川越市に転居して住んでいる人の数を示す必要があるのではないか。
- ・表現の仕方について、検討したい。
- シビックプライドやシティセールスは、まちづくりや都市計画、観光などの分野と親和性が高いので、部署間でしっかりと連携してほしい。また、関係人口と言われるような、市外に住みながら川越市に何らかの関わりを持つ人を増やしていくことも重要であり、その考え方も加味してほしい。
- かつてのクレアモールでは昭和の雰囲気漂うお店が多かったが、今はそれも少なくなっている。大正浪漫通りや一番街だけでなく、自然の魅力も多いので、それらの特徴を観光客にもっとPRしてはどうか。
- ・中心市街地以外にも観光エリアを広げていくことを関係課と協議している。今後も様々な観光エリアのPRについて検討していきたい。

(2) 将来都市像について

～ 資料1～資料4を基に説明 ～

- 「ずっと安心、もっと幸せなまち」とあるが、もっともっと幸せになろうという上昇志向が強い印象を持った。これが「魅力あふれるまち」の姿なのか疑問に思う。
- 「ずっと安心」とは何に対する安心なのか。内容を読むと、子育て環境などに言及しているが、これらは「安心」というより「安全」の話ではないか。また、「もっと幸せ」というと、今は幸せではないと誤解されるのではないか。
- 持続可能なまちであることと「ずっと」とは繋がるかもしれないが、「ずっと安心」というフレーズを聞いたときに連想するのは治安ではないか。また、「ずっと安心」というと、行政側の努力や働きかけがなくても安心していられるというイメージもあり、それも含めて違和感を持った。
- ・人口減少などの不安要素があっても、これから10年後もずっと安心して過ごせるという川越市の目指す姿を描いたものである。
- 「もっと」や「ずっと」などのフレーズは、他市の将来都市像で使用している例がない。副詞や形容詞を使わない別の表現を考えてはどうか。
- もし若い世代の人たちへのメッセージを込めるのであれば、将来への明るい見通し等が込められていても良いと思う。
- ・将来都市像は、なるべくシンプルに表現することをコンセプトとしてきた。いただいた御意見を踏まえて、キーワードである「安心」「幸せ」「魅力」は押さえながら、他に分かりやすい表現があるか持ち帰って検討したい。

- 「ずっと」や「もっと」という言葉は必要ない考える。若者も高齢者も、ストレートな表現の方を好むのではないか。
- 誰もが住みたいと感じるように「快適」という言葉を入れてはどうか。
- 「安心」が治安を想起させるのは同感である。また、「ずっと」が持続可能性を指すならば、持続可能性と「安心」とが結び付かないのではないか。「安心」にはこだわるのか。
 - ・こだわりたいと考える。「安心」は、治安という意味に限定せず、地域における暮らしやすさなどを含む包括的な概念と整理している。
- 他の自治体と差別化できるような、川越らしさを感じられる言葉が欲しいと考える。また、守りに入るのではなく、中核市として攻めの姿勢が示せると良いのではないか。攻めるまちに若者はどんどん集まってくると思われる。
- ◎次回までに用語の説明も含め、御意見を踏まえて精査されたい。

(3) その他

- ・【事務局】次回の会議は8月22日金曜日午後2時から開催予定。

4 閉 会